

インターバンクの声（2016年8月18日）

ニューヨーク市場の中盤、年内の早期利上げの可能性に対して、少し前のめりになり過ぎていたと感じ始めたのか、7月の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨の発表を待たずにドルが円に対し売られ始めた。前日、ダドリー・ニューヨーク連銀総裁とロックハート・アトランタ地区連銀総裁の早期利上げに前向きな発言が伝わっていたことで、議事要旨の内容がタカ派的になっているとの見方が急に増えてしまっていたわけだが、発表が近づくにつれ、持ち高を調整する動きになったのだろう。そうした慎重な見方に傾いたのは結局正解。議事要旨の内容はいつものように「多くの指標を点検する必要がある」との認識が中心で、前日膨らんでいた早期利上げが確認出来るのではとの期待が一日で萎んでしまった。ただ、2人のメンバーは7月の利上げを支持していたことも伝わっており、8月26日ジャクソンホールでのイエレン議長の発言や9月2日の雇用統計の結果によっては、9月利上げの可能性すら再浮上するかも知れない。ただ、それらの日程までには時間的余裕があり、しかも円相場は再び100円に手が届く水準にあるだけに、日本勢の多くが嫌がる円高が進む雰囲気は強いが、昨日の浅川財務官の介入を匂わせた発言は気になる。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。